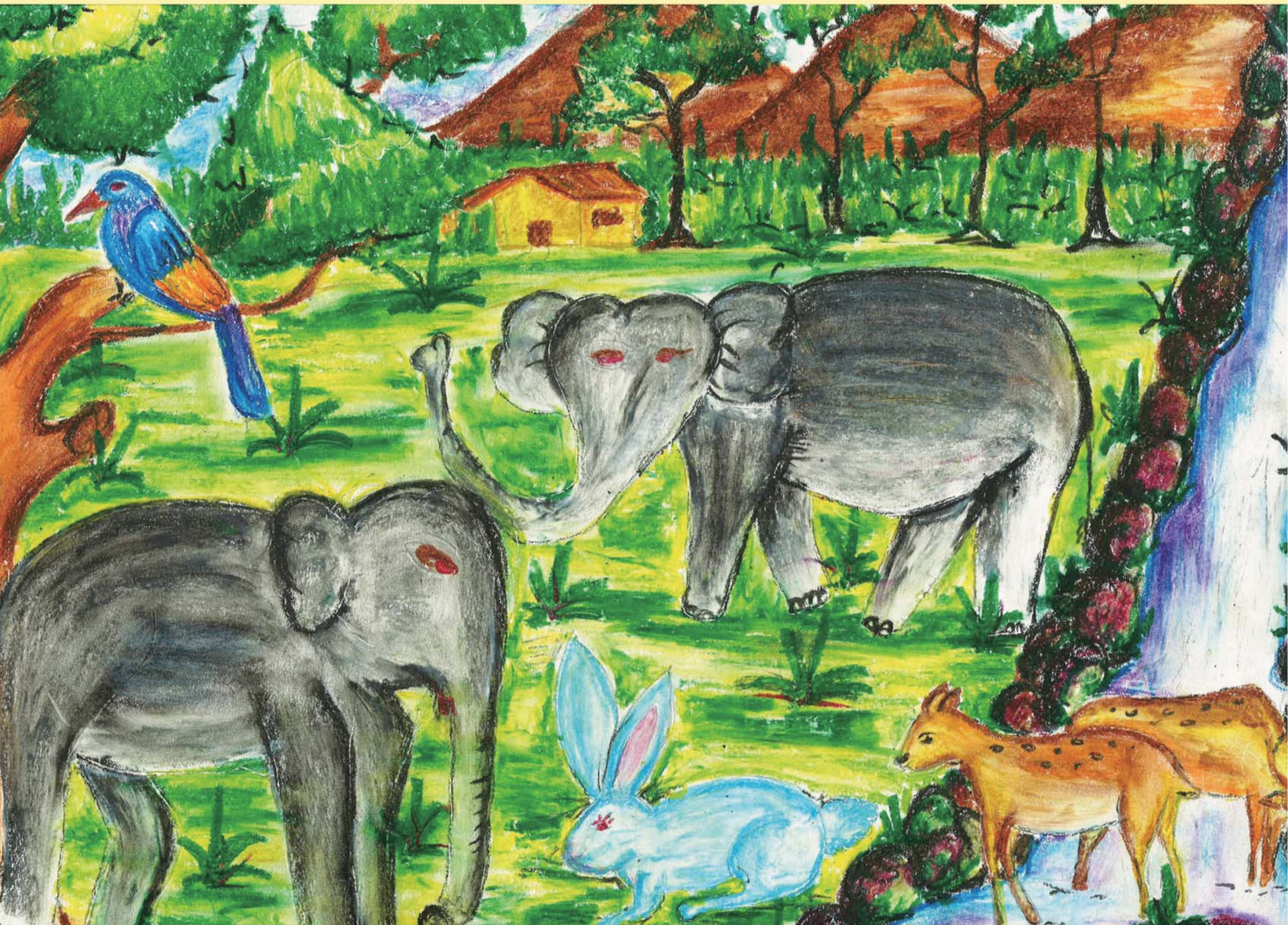


MACROCOSM



CONTENTS

- 2 第19回青少年国際交流全国フォーラム
日本青年国際交流機構第28回全国大会(沖縄大会)
- 6 第11回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」
(NPOマネジメントフォーラム2013)
- 8 青少年国際交流を考える集い
- 10 平成24年度内閣府青年国際交流事業航空機による青年海外派遣報告会
- 11 第39回「東南アジア青年の船」事業報告会
- 12 国際理解教育支援プログラム
- 13 平成24年度財団法人青少年国際交流推進センター事業一覧
- 14 内閣府青年国際交流事業 大学説明会平成24年度実施報告

マクロコズム

平成24年度 内閣府青年国際交流事業 航空機による青年海外派遣報告会

平成25年2月3日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、平成24年度内閣府青年国際交流事業航空機による青年海外派遣報告会を実施しました。

参加者には、事前申込みのフォームで「参加青年に聞いてみたいこと、この報告会で知りたいこと」を記載してもらい、今年度の新しい取組として、当日、参加青年がそれらの質問の回答を書いて入口に掲示しました。待ち時間等を利用して、多くの来場者が熱心に回答を読んでいます。

また、今年度は、参加青年による事業報告を2部構成のパネルディスカッションにしました。第一部は「事業に参加して、何を得て、何を学び、どのように成長できたか」とし、6名のスピーカーが具体的な事例を挙げ、第二部は「事業で得た経験をいかし、今何をしているか、これから何をしたいか」というテーマで、既に何らかの活動をしている5名の青年が発表しました。

ブース展示では、応募から帰国までの各自の心の動きや行動を示した「マイストーリー」、派遣国での活動を記録した「行程表」を団共通で展示しました。

当日来場者は約180名となり、参加者からは、「この事業に興味を持ち、自分も応募したいと思った」「事業報告者一人一人が自分の体験を生き生きと話していたのがよかった」等の意見が聞かれ、大盛況のうちに終了しました。



事業で得た経験をいかして、今何をしているかを話すスピーカー



各派遣団のブースを訪れた来場者に自分の体験を話す団員

プログラム

| 時間 | 内容 |
|-------|---------------------|
| 13:15 | 開会式 |
| 13:30 | プログラム概要紹介 |
| 13:35 | 航空機による青年海外派遣報告 |
| 14:50 | 休憩 |
| 15:00 | 内閣府青年国際交流事業概要及び募集説明 |
| 15:35 | ブースの見どころ紹介 |
| 15:45 | 各派遣団等ブース展示 |
| 16:45 | 閉会式 |

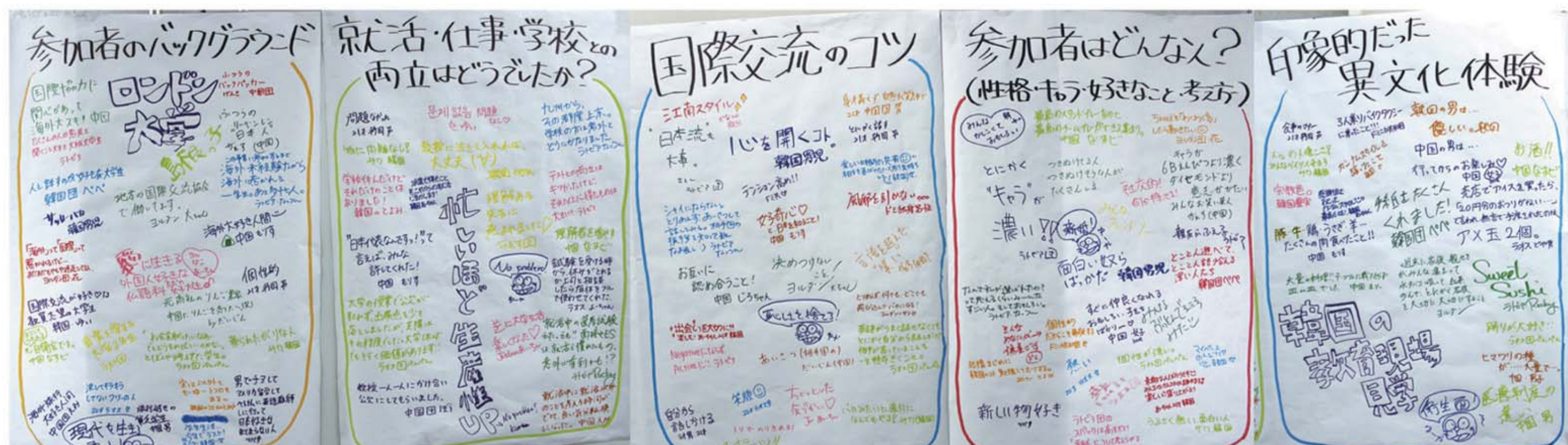


団共通で展示した「マイストーリー」や「行程表」の説明をする



団員が模造紙にまとめた事前に寄せられた質問への回答を読む来場者

●入口に掲示された事前に寄せられた質問への回答●



第39回「東南アジア青年の船」事業報告会

平成25年2月24日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第39回「東南アジア青年の船」事業報告会が実施されました。一般来場者(約200名)と今年度参加青年及び関係者合わせて約250名が参加しました。

今回は「未来のリーダーになるために」と題し、前半のパネルディスカッションでは、事業を通じて得た経験、感動、学び、友情、そして自らの変化について発表し、後半のブース展示では、参加青年一人一人が来場者と直接会話をし、本事業の成果を報告しました。また、船内活動や寄港地活動を分かりやすく紹介するために、参加青年自らが作成したビデオやパワーポイントも交えて発表しました。

一般来場者からは、「船という空間であることの意義をふまえ、志を高く持たれているということに感動しました」、「船上での気づきを、借りものではない言葉で表現されていて、本当に多くの貴重な経験を積んでこられたのだと頼もしく感じました」、「プログラムのイメージをつかむことができ、参加したいという気持ちが一層増した」等のコメントが寄せられました。

■報告会実行委員長からのあいさつ

若松 成

昨年12月に事業を終えて以来、私たちは、自分たちがどのような経験をして、何を感じ、どう変わったのかを皆さんに伝えるため、そして自分自身が何を得たのかを確かめるために振り返ってきました。自分の中の何かが大きく変わったことを感じつつも、それを言葉で表現できず、歯がゆい思いをしました。事業が終了してから約2か月間、日本参加青年38名で試行錯誤しながら作り上げた成果を皆様に発表できることを嬉しく思っております。

本報告会のテーマは「未来のリーダーになるために」です。この事業を通して、リーダーシップには様々な形があると実感しました。集団を引っばっていくリーダーだけではなく、みんなが気づかないことに気づいて隙間を埋める気配り、雑用を進んでやってくれる優しさ、話合いで険悪なムードになった時に場を和ませてくれる心遣い、それら全てがチームの力を最大限に引き出すリーダーシップなのではないかと思いました。

日本参加青年が「自分にはいったい何ができるのか」を考え、見つけ出したそれぞれのリーダーシップの形を、報告会を通して皆様に少しでもお伝えできれば幸いです。



■主なプログラム

| 時間 | 内容 |
|-------|--|
| 13:00 | 開会式 |
| 13:15 | 第39回「東南アジア青年の船」事業報告 |
| 13:40 | 内閣府青年国際交流事業概要及び募集説明 |
| 14:20 | パネルディスカッション～未来のリーダーになるために～ 1. 自己紹介 2. 「船」という環境ならではの経験 3. 「日本代表」という立場を強く意識した瞬間 4. 多様性の中で感じたこと 5. 今後の目標・夢 |
| 15:30 | ブース展示 |
| 16:10 | 閉会式 |



展示ブースは多くの一般来場者でにぎわう



質問コーナーで参加青年が来場者の疑問に答える



船上で学んだプレゼンテーション能力をいかして、事業の概要を説明する



パネルディスカッションで自らの経験を生き生きと語る

一般来場者アンケートより

- ・ 司会者、パネリストがそれぞれ落ち着いて、はっきり、しっかりお話されていたので分かりやすかったです。乗船の成果が見えました。
- ・ 日本参加青年が事業で何を体験したか、そしてそこで何に気づいたかを知ることができてよかったです。また、これからの目標などを生き生きと話されている姿を見て刺激を受けました。
- ・ 自分と同じ学生の皆さんの「伝えよう」という思いがひしひしと伝わってきました。とても良い報告会でした。
- ・ 富山からこの報告会のために来ましたが、本当に来て良かったです。事業に参加したいという気持ちが強くなりました。
- ・ 頼もしく誇らしい堂々とした姿を拝見し、日本の将来に明るい希望が見えました。

(財) 青少年国際交流推進センター主催 国際理解教育支援プログラム

平成16年度より、(財)青少年国際交流推進センターの独自事業として開始され、内閣府青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を日本の学校等に派遣して、国際的な視野を持つ青少年の育成に貢献してきました。これまでに、約35回の開催実績があり、各学校等からは高い評価をいただいています。

平成24年度下半期実施実績

第1回

| | |
|-----------|---|
| 日付 | 平成24年12月14日(金) |
| 実施先 | 東京都大田区立入新井第五小学校 |
| 担当者 | 清水校長、江袋先生(4年生担任) |
| 対象 | 4年生64名 |
| テーマ | 日本の伝統的な遊びを英語で紹介する |
| 派遣された外国青年 | Mr. Bae Junsob(韓国)第24回「日本・韓国青年親善交流」事業 Mr. Liu Mingquan(中国)国際青年交流会議2012 Ms. Ye Changchang(中国) Mr. Alejandro Basanez(メキシコ) |

■講師の感想 **Mr. Liu Mingquan(中国)**
小学校で国際理解教育や国際交流活動を行うことは、草の根交流を行う意味で役立つと思います。今回、国際理解教育を通して、日本の子供たちと交流ができたことは、とても楽しく、貴重な経験になりました。これからもこのプログラムに参加し、日本の子供たちに中国の文化や知識を紹介したいです。民間レベルの友好のためにがんばっていきたくと思っています。



外国人講師が中国の鬼ごっこを紹介する

第2回

| | |
|---------|---|
| 日付 | 平成25年2月14日(木) |
| 実施先 | 東京都世田谷区立玉堤小学校 |
| 担当者 | 小林先生(6年生担任) |
| 対象 | 6年生69名 |
| テーマ | 世界の人々が一緒に生きていくために、自分にできることを考える |
| 派遣された青年 | 白鳥正信さん * SSEAYP 20 Ms. Thirattanakul Pornphak(タイ王国) * SSEAYP38 |

■講師の感想 **Ms. Thirattanakul Pornphak(タイ王国)**
私たちが準備したプレゼンテーション等を児童たちはとても熱心に聞き、参加してくれました。次世代の青年に新しい視点をもたらす良いプログラムで、児童が世界の人々や文化の違いを発見する良い機会だと思います。プログラムの時間配分も良く、学校給食を児童と一緒に食べることによって、更に交流を深めることができました。もっとタイに関するデータやタイの衣装・食べ物などを準備できたら、児童がタイの文化を実体験できるのではと思います。この授業が彼らの将来につながる経験となり、それに私が少しでも貢献できたのなら大変うれしいです。



講師が日本と東南アジアの関係について説明する

*SSEAYP=「東南アジア青年の船」事業

第3回

| | |
|-----------|---|
| 日付 | 平成25年2月28日(木) |
| 実施先 | 東京都中央区立佃島小学校 |
| 担当者 | 小久保校長、秋澤先生(3学年主任) |
| 対象 | 3年生約100名 |
| テーマ | 他の国の文化、生活、環境などを知り、視野を広げ、自国の文化や他の国の文化を互いに尊重し合う |
| 派遣された外国青年 | Mr. Hay Vanna(カンボジア王国) Mr. Liu Mingquan(中国)国際青年交流会議2012 Ms. Thirattanakul Pornphak(タイ王国) * SSEAYP38 |

■講師の感想 **Mr. Hay Vanna(カンボジア王国)**
このプログラムに参加でき、うれしく思います。カンボジアの国や文化などを児童に紹介することは私にとっても良い経験でした。私の発表中、児童はカンボジアについての知識やニュースを通して見聞きしたことをたくさん話してくれました。また、カンボジアの世界遺産についても良く知っていました。私の話が終わると、彼らから多くの質問(カンボジアの日常生活や交通など)を受けました。このプログラムのすばらしさは、児童が他国の多様な文化背景についてさらに学ぶことができる点だと思います。



外国人講師が自国の文化を紹介する

◆ 実施をご希望の方へ ◆

(財)青少年国際交流推進センターでは、小学校、中学校、高等学校、大学、自治体等からの講師派遣、プログラムのコーディネート等の依頼にも応じています。お気軽にご相談ください。
国際理解教育支援プログラム担当：大久保正美・宮原久美 e-mail: iuesp@iyeo.or.jp / tel: 03-3249-0767

1. 青少年国際交流事業の企画、実施及び協力

- (1) 国際理解教育支援プログラム
東京都大田区立入新井第五小学校(12月14日)
東京都世田谷区立玉堤小学校(2月14日)
東京都中央区立佃島小学校(2月28日)
- (2) 第6回「国際交流リーダー養成セミナー」
テーマ：グローバル時代のリーダーシップ
～プレゼンテーション能力の向上を目指して～(3月30日～31日)
- (3) 青少年国際交流スタディツアー
内容：タイ王国・スタディツアー 2013 (3月18日～26日)
- (4) SSEAYPインターナショナル設立25周年記念フォーラム
(4月26日)

2. 内閣府等の実施する青年国際交流事業への協力

- (1) 内閣府の実施する青年国際交流事業への協力
「国際青年育成交流」事業、「日本・中国青年親善交流」事業、「日本・韓国青年親善交流」事業、「東南アジア青年の船」事業、「世界青年の船」事業、「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」及び「青少年国際交流事業の活動充実強化」の各支援業務
- (2) その他の国際交流事業への協力
 - ① 第24回SSEAYPインターナショナル総会2012(日本)の運営に協力(4月25日～28日)
 - ② 外務省からの依頼に基づき、国際機関コロポ・プランが主催する9th Asian Youth Congress(大阪)への日本代表団員の募集、選考、推薦に協力した(7月9日～11日)
 - ③ 韓国青少年団体協議会からの依頼により、韓国女性家族部主催で行われた、アジア4地域24か国の青年約200名が参加した2012「アジア青少年招へい研修」への日本参加青年7名の募集、選考及び研修を実施した(事前研修:8月5日、韓国滞在:8月6日～20日)
 - ④ 韓国青少年団体協議会からの依頼により、韓国女性家族部主催で行われた、北西アジア、南西アジア、中央アジア、東南アジア、アフリカ、中東、ヨーロッパ、アメリカから75名が参加した、第23回「国際ユースフォーラム」への日本参加者2名の募集、選考を実施した(8月22日～28日)

3. 青少年国際交流に関する啓発及び研修

- (1) 国際青年交流会議(7月5日～7日)
- (2) 日本・ASEANユースリーダーズサミット(10月27日～30日)
- (3) 第19回青少年国際交流全国フォーラム(12月8日)
- (4) 団体会員のブロック大会(青少年国際交流を考える集い)
- (5) 内閣府青年国際交流事業報告会(6月17日、2月3日、2月24日)

4. 青少年国際交流に関する出版物の刊行

- (1) 機関誌 MACROCOSM(年4回発行)、ホームページ上でも公開、検索システム導入
- (2) 年報 「平成24年度年報 青年国際交流事業と事業参加者の事後活動」を1,500部発行
- (3) ホームページ 当センターのホームページにて、団体概要及び事業内容、募集案内等を公開

5. 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究

- (1) 青少年国際交流事業に関する情報収集
内閣府青年国際交流事業既参加青年等の名簿整備
- (2) 青少年国際交流に関する調査研究
内閣府青年国際交流事業既参加青年の活躍状況についての調査

6. 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等

- (1) 活動奨励金等の交付

(2) コンサルティング事業等

- ① ヨルダン大使館より紹介のあった、「第14回アラブ・チャリティー・バザー」の広報に協力した。収益金の一部は東日本大震災の被災地の幼稚園へ絵本を贈る活動に充てられる(4月8日)
- ② 日本経営クラブ主催「第19回世界の美術鑑賞と解説講演」への後援名義付与依頼に応じた。これは、日本経営クラブ初代会長故土光敏夫氏がグローバルな観点からビジネスマンに必要な五感を身に付けることを研修課題としたことから始まり、広く社会に貢献できる若い企業人を支援しようとする活動である(4月25日)
- ③ 財団法人国際教育振興会理事長及び外務省広報文化交流部長からの依頼に基づき、メキシコ政府主催により実施される青年交流プログラムY20 Mexicoの参加者募集に際し、広報活動を行った(5月9日～11日)
- ④ 2007年日中青年世代友好代表団中国行 5周年の集い実行委員会より依頼のあった、「日中国民交流友好年」認定行事 2007年日中青年世代友好代表団中国行 5周年の集いへの後援名義付与依頼に応じた(6月3日)
- ⑤ 日本経営クラブ主催「第29回JMCミドルの日」(提言とコンサート)への後援名義付与依頼に応じた。このプログラムは、日本経営クラブ初代会長故土光敏夫氏が創立20周年記念の際に提案されたもので、ビジネスマンに必要な「五感取得運動」等と併せて毎年開催されているものである(7月27日)
- ⑥ 障害福祉フォーラム実行委員会より依頼のあった、障害福祉青年フォーラム2012 in 大分を共催した(8月25日～26日)
- ⑦ ドミニカ共和国大使館より紹介のあった、「フェスティバルラティノアメリカノ 2012 チャリティーバザー」の広報に協力した。バザーの収益は中南米及びカリブ諸国の福祉友好親善の諸事業などに充てられる(11月1日)
- ⑧ 日本経営クラブ主催「第20回JMCコンサート」への後援名義付与依頼に応じた。これは、日本経営クラブ初代会長故土光敏夫氏が創立20周年記念の際に提案され、その10年後にビジネスマンに必要な社会貢献活動の一つとして「若い音楽家を励ます会」が設立され、コンサートの形で毎年開催されているものである(11月7日)
- ⑨ 韓国女性家族部の依頼により、来日した女性家族部及び韓国青少年交流センター職員5名と当センター職員の間で青年国際交流事業に関する意見交換を当センター会議室にて行った。また、独立行政法人国立青少年教育振興機構と女性家族部との会議の設定調整を行うとともに会議に同席した(12月12日～13日)
- ⑩ 佐賀大学からの依頼により、「グローバル人材と国際交流」をテーマにした講演を行うため、講師を紹介した(1月8日)
- ⑪ 日本学術振興会アメリカ合衆国事後活動組織からの依頼により、同組織主催による第3回学術科学フォーラムへ「世界青年の船」事業の既参加青年を招待講演者として紹介した(2月1日)
- ⑫ Humanitarian Affairs Asiaの依頼により、平成25年8月1～7日にフィリピンで開催される第4回大学学生リーダーシップ・シンポジウム(4th University Scholars Leadership Symposium 2013)の国際青年実行委員に推薦する日本青年を募集し1名を推薦した。その後、選考を通った日本青年は、3月2日からタイにおけるインターンを受けながらシンポジウムの準備を行い、シンポジウムへの日本参加者の募集に協力した(2月6日)
- ⑬ 岐阜県青年国際交流機構からの依頼により、タイ語通訳募集についての広報に協力した(3月2日)
- ⑭ 長野県青年国際交流機構からの依頼により、「ワールドスタディカフェ 2013～世界はきっとどこかでつながっている～」への後援名義付与依頼に応じた(3月17日)

内閣府青年国際交流事業 大学説明会 平成24年度実施報告



内閣府青年国際交流事業を広報するため、内閣府からの契約に基づいて、首都圏の大学を中心に「大学説明会」を実施しました。平成24年度は6月15日(金)から平成25年2月9日(土)にかけて20箇所で開催し、合計約460名の方が説明会に参加しました。

説明会では、内閣府担当者からの事業説明の後、既参加青年が応募の動機や事業に参加して得られたもの、今後、事業参加の体験をどのようにいかしたいか等を語りました。応募を検討している学生は、熱心に説明を聴いていました。

平成24年度大学説明会実施内容

平成24年

| 月日 | 曜日 | 時間 | 大学 | 会場 |
|--------|-----|-------------|----------|-----------|
| 6月15日 | (金) | 12:30-15:30 | 上智大学 | 四ツ谷キャンパス |
| 10月4日 | (木) | 14:40-16:10 | 上智大短期大学部 | 秦野キャンパス |
| 11月6日 | (火) | 12:35-13:10 | 青山学院大学 | 相模原キャンパス |
| 11月8日 | (木) | 16:45-18:15 | 明治学院大学 | 横浜キャンパス |
| 11月12日 | (月) | 12:50-13:15 | 国際基督教大学 | |
| 11月13日 | (火) | 18:00-19:30 | 明治大学 | 駿河台キャンパス |
| 11月15日 | (木) | 17:00-18:30 | 早稲田大学 | 早稲田キャンパス |
| 11月19日 | (月) | 18:10-19:40 | 明治大学 | 和泉キャンパス |
| 11月21日 | (水) | 16:00-17:30 | 筑波大学 | 筑波キャンパス |
| 11月30日 | (金) | 12:15-12:55 | 津田塾大学 | 小平キャンパス |
| 12月4日 | (火) | 16:40-18:10 | 中央大学 | 多摩キャンパス |
| 12月5日 | (水) | 13:30-15:00 | 東京外国語大学 | 府中キャンパス |
| 12月7日 | (金) | 18:30-20:00 | 慶応大学 | 湘南藤沢キャンパス |
| 12月10日 | (月) | 13:10-14:40 | 麗澤大学 | |
| 12月11日 | (火) | 16:30-18:00 | 成蹊大学 | |
| 12月12日 | (水) | 15:00-16:30 | 獨協大学 | |
| 12月13日 | (木) | 12:50-14:20 | 法政大学 | 市ヶ谷キャンパス |

平成25年

| 月日 | 曜日 | 時間 | 大学等 | 会場 |
|------|-----|-------------|------------|----------|
| 1月8日 | (火) | 18:00-20:00 | 慶応大学 | リーブラ(三田) |
| 2月8日 | (金) | 18:00-20:00 | 広島大学 | 東広島キャンパス |
| 2月9日 | (土) | 16:00-18:00 | ひろしま国際センター | 会議室 |

内閣府青年国際交流事業説明会の流れ

| | プログラム内容 |
|---|--|
| 1 | 内閣府担当者からの事業概要説明 |
| 2 | 事業既参加者の話(2名) ・船による海外派遣事業既参加者による報告 ・航空機による海外派遣事業既参加者による報告 |
| 3 | 内閣府担当者から平成25年度事業の応募方法説明 |
| 4 | 質疑応答&事業ごとに分かれて懇談会 (既参加者や担当者を交えて質疑応答) |



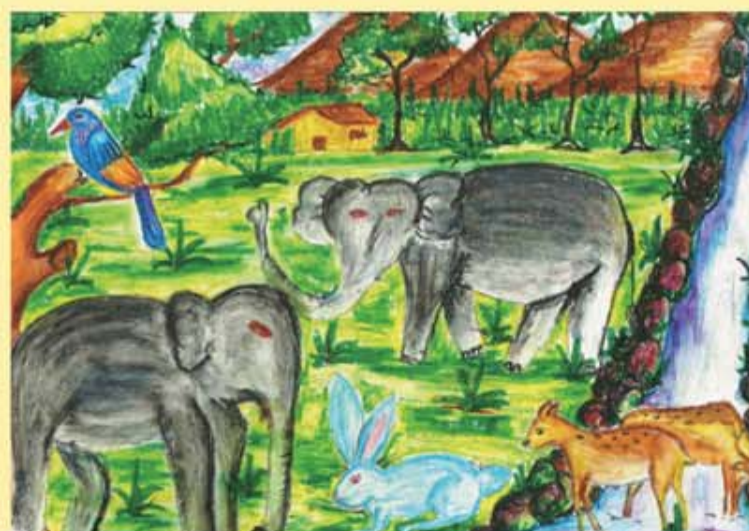
自分の体験を発表する参加青年



写真等を見せながら、応募を考えている学生と懇談する

今月の表紙

スリランカ教育支援プロジェクト「One More Child Goes To School」の奨学生(当時3年生・男子)の作品。スリランカは国民も誇る自然豊かな国です。村では人々と動物が共存する美しい景色がいまもなお残っています。



編集後記

今年もP.10の「内閣府青年国際交流事業」(航空機による青年海外派遣)報告会の担当をしました。報告会で生き生きと自分の体験を話す参加青年の姿に感銘を受け、次年度の事業に応募する人が毎年必ずいます。今年も舞台上で「昨今の頃は、私も皆さんと同じ席に座って、話を聞いていたのです」と語りかける青年の姿を見ながら、今年も大勢の人が応募してくれることを願いました。(ふ)

MACROCOSM 3月号 vol.101

2013年3月29日発行

編集 マクロコズム編集委員会

発行 (財)青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町

2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室

日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 200円 本体191円

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270

「ココロ花咲く、ステキな旅を。」

| 支店名 | 電話番号 |
|------------------|--------------|
| 札幌支店 | 011-221-0821 |
| 青森支店 | 017-723-3671 |
| 盛岡支店 | 019-651-8800 |
| 仙台支店 | 022-263-3232 |
| 秋田支店 | 018-866-0109 |
| 山形支店 | 023-641-4141 |
| 福島支店 | 024-523-4451 |
| 水戸支店 | 029-224-6627 |
| 宇都宮支店 | 028-636-7761 |
| 高崎支店 | 027-325-3201 |
| さいたま支店 | 048-640-1009 |
| 千葉支店 | 043-243-0109 |
| ストリームライン 新宿支店 | 03-5348-3500 |
| 横浜支店 | 045-326-1120 |
| 甲府支店 | 055-222-0381 |
| 新潟支店 | 025-243-1515 |
| 富山支店 | 076-431-7638 |
| 金沢支店 | 076-233-0109 |
| 福井支店 | 0776-23-2800 |
| 長野支店 | 026-226-4315 |
| 岐阜支店 | 058-263-4657 |
| 静岡支店 | 054-255-1919 |
| 名古屋支店 | 052-232-1091 |

| 支店名 | 電話番号 |
|-----------|--------------|
| 三重支店 | 059-221-3331 |
| 滋賀支店 | 077-565-0109 |
| 京都支店 | 075-361-5351 |
| 大阪支社第2営業部 | 06-6344-3927 |
| 神戸支店 | 078-221-1090 |
| 奈良支店 | 0742-23-2371 |
| 和歌山支店 | 073-425-3211 |
| 鳥取支店 | 0857-23-2001 |
| 松江支店 | 0852-21-5425 |
| 岡山支店 | 086-225-1746 |
| 広島支店 | 082-545-1090 |
| 山口支店 | 083-972-5454 |
| 徳島支店 | 088-622-8991 |
| 高松支店 | 087-851-6666 |
| 松山支店 | 089-941-9231 |
| 高知支店 | 088-825-0109 |
| 福岡支店 | 092-739-0010 |
| 佐賀支店 | 0952-26-1131 |
| 長崎支店 | 095-827-4151 |
| 熊本支店 | 096-354-5765 |
| 大分支店 | 097-538-1091 |
| 宮崎支店 | 0985-25-6111 |
| 鹿児島支店 | 099-257-0109 |
| 沖縄支店 | 098-868-8822 |

国際会議からご出張まで、
お問合せは、上記支店またはお近くのトップツアー各支店へ

お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

50年の実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは、旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

[旅行インテリジェンス企業]です。



東急観光が社名を変えました。

トップツアー株式会社

観光庁長官登録旅行業第38号 日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル16階

<http://www.toptour.co.jp>

国際旅行事業部 ストリームライン新宿支店

03-5348-3500



10450055(02)
JISQ15001:2006準拠



撮影：三好和義

初夏の日本をめぐる旅を、にっぽん丸で

海の青があざやかになるこの季節、
 にっぽん丸で旅に出てみませんか。
 ベストシーズンを迎える九州一周クルーズや、
 屋久島と宮島、熊野古道、三つの世界遺産を訪れる旅、
 式年遷宮を迎える伊勢神宮を訪ねる祈りの旅へ。
 海から訪ねる日本の美しさを、にっぽん丸でお楽しみください。

NIPPON MARU



| | | | |
|---|--|--|--|
| 2013年5月7日(火)～5月12日(日) 出雲・伊万里クルーズ | 横浜～(瀬戸内海※)～大社～伊万里～横浜 191,000円～1,000,000円 | 2013年5月30日(木)～6月2日(日) 初夏の南紀白浜・高知クルーズ | 横浜～高知～田辺～横浜 121,000円～600,000円 |
| 2013年5月12日(日)～5月15日(水) 東京発着 神津島・八丈島クルーズ | 東京～神津島～八丈島～東京 120,000円～600,000円 | 2013年6月2日(日)～6月7日(金) 初夏の屋久島・宮島と日高クルーズ | 横浜～宮島～屋久島～日高～横浜 191,000円～1,000,000円 |
| 2013年5月15日(水)～5月23日(木) 初夏の九州一周クルーズ | 横浜～神戸～別府～指宿～天草～青方(上五島)～ 呼子～(瀬戸内海※)～神戸～横浜 305,000円～1,600,000円 | 2013年6月14日(金)～6月16日(日) ウィークエンド伊勢神宮クルーズ | 横浜～鳥羽～横浜 78,000円～400,000円 |

(※)昼間の瀬戸内海クルーズをお楽しみいただけます。

○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。

商船三井客船 クルーズデスクフリーダイヤル 9:30～17:00(土・日・祝はお休みです) 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5階
☎0120-791-211 <http://www.nipponmaru.jp>

青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第28回全国大会 第19回青少年国際交流全国フォーラム 沖縄大会



平成24年12月8日(土)～9日(日)、沖縄県糸満市にて、第19回青少年国際交流全国フォーラム、日本青年国際交流機構(IYEO)第28回全国大会を実施しました。大会テーマは「ふれ合おう ちむぐる 深めよう ゆいま～る」とし、基調講演や分科会を通して、沖縄の精神に触れ、参加者の活動をより豊かなものにするための気づきの場となることを目指して企画されました。比嘉光龍(ふいじゃ ばいろん)氏の基調講演からは、沖縄語という言語を通して、各自が社会的弱者に思いをはせることの大切さが強調されました。

基調講演「沖縄のこころと うちなーぐち (沖縄語)」(講演内容抜粋)

講演者:比嘉 光龍(ふいじゃ ばいろん)氏
平成24年12月8日(土)
サザンビーチホテル&リゾート沖縄

沖縄のお祝いや式典などで、最初に歌う「かじゃでいふう」という唄を歌います。今日は皆さんとこうやってお会いすることを私もとても楽しみにしておりました。琉球王国時代には、琉球国王の前で歌われたということで、「御前風」、沖縄の言葉で「ぐじんふう」とも言います。皆さんを琉球国王と見立てて歌わせていただきたいと思います(笑)。歌詞の説明もしたほうがいいですね。「きゆぬふくらしゃやなをうにじやなたている ついぶでいをうるはなぬ ついゆちゃたぐとう」です。「今日のうれしい日は何に例えようか。まるで露に出会った蕾のようだ」という意味です。では、聴いてください。(三線&唄)



名前の由来

皆様、はじめまして。比嘉 光龍(ふいじゃ ばいろん)と申します。私の名前の説明をします。比嘉「ひが」という名前は、沖縄では、「鈴木さん」、「佐藤さん」のようによくある名前です。県内でトップでしょうね。「ひが」というのは日本語の読み方、発音なんです。沖縄語では「ふいじゃ」もしくは「ひじゃ」と言います。「ひじゃ」というのは平民の発音で、「ふいじゃ」というのは士族の発音なんです。私は士族の家系ではないのですが、士族の言葉は丁寧なので、それを名乗っています。「光龍」というのは芸名なんです。「光」は「ばい」と読みません。当て字です。この話をするに5時間ぐらいかかるので、興味のある方は私のホームページを見ていただければと思います。

私は1969年那覇生まれです。父はアメリカ人で、母は北部の金武町の出身です。私は生後すぐ母親の兄夫婦に育てられました。おじさん、おばさんは英語どころか日本語もそこそこで、生まれた時から日本語と沖縄語が混ざった言葉ですと育てられました。ですから、西洋人の顔をしていますけれど、20歳まで英語は全く「I don't know.」でした。でも、さすがにこの顔で英語を話せないとちょっとまずいなと思ひまして、20歳をすぎて留学というものをしました。この顔で留学ですよ、皆さん。もう大変ですよ。成田空港で日本人の列に並んでいますとね、必ず係官



が来るんですよ。“Excuse me.”と。そこで「日本人です」と答えると「あ、失礼しました」。すると、今度は別の方から“Excuse me.”「日本人です」これを何度も繰り返して、もう苦痛でしたよ。こういう日本人もいるんだということを今日は理解していただきたいなと思います。

社会的弱者とは

さて、主催者の方から、「青年層が社会に貢献するに当たって、何が大切かを考えるきっかけとなる講演をしてほしい」と依頼がありました。いろいろ考えた末、私の答えは、「社会的弱者の存在を知る」というものでした。「社会的弱者」には「マイノリティ」という言い方もありますね。「マイノリティ」とは、「少数派」という意味です。実は、「マイノリティ」には強者もいますよね。億万長者などがそうです。彼らはお金を持っていますから、どんなことでもやりたければある程度できるかもしれません。そういう意味では、本当の意味で「弱者」とは言えないかもしれません。だから、「マイノリティ」という言葉がいいのか、それとも「社会的弱者」という言葉がいいのか、それは皆さんに考えていただいて、本日は「社会的弱者」＝「マイノリティ」としておきます。

日本社会において「社会的弱者」にはどのような方が含まれると思うかをお聞きしたいと思います。「収入が少ない母子家庭」「身体障害者の方」「女性」「病気を患っている方」「一人暮らしで自立できないお年寄りの方」……。いろいろな認識があると思うんですが、社会的弱者を辞書で調べてみました。

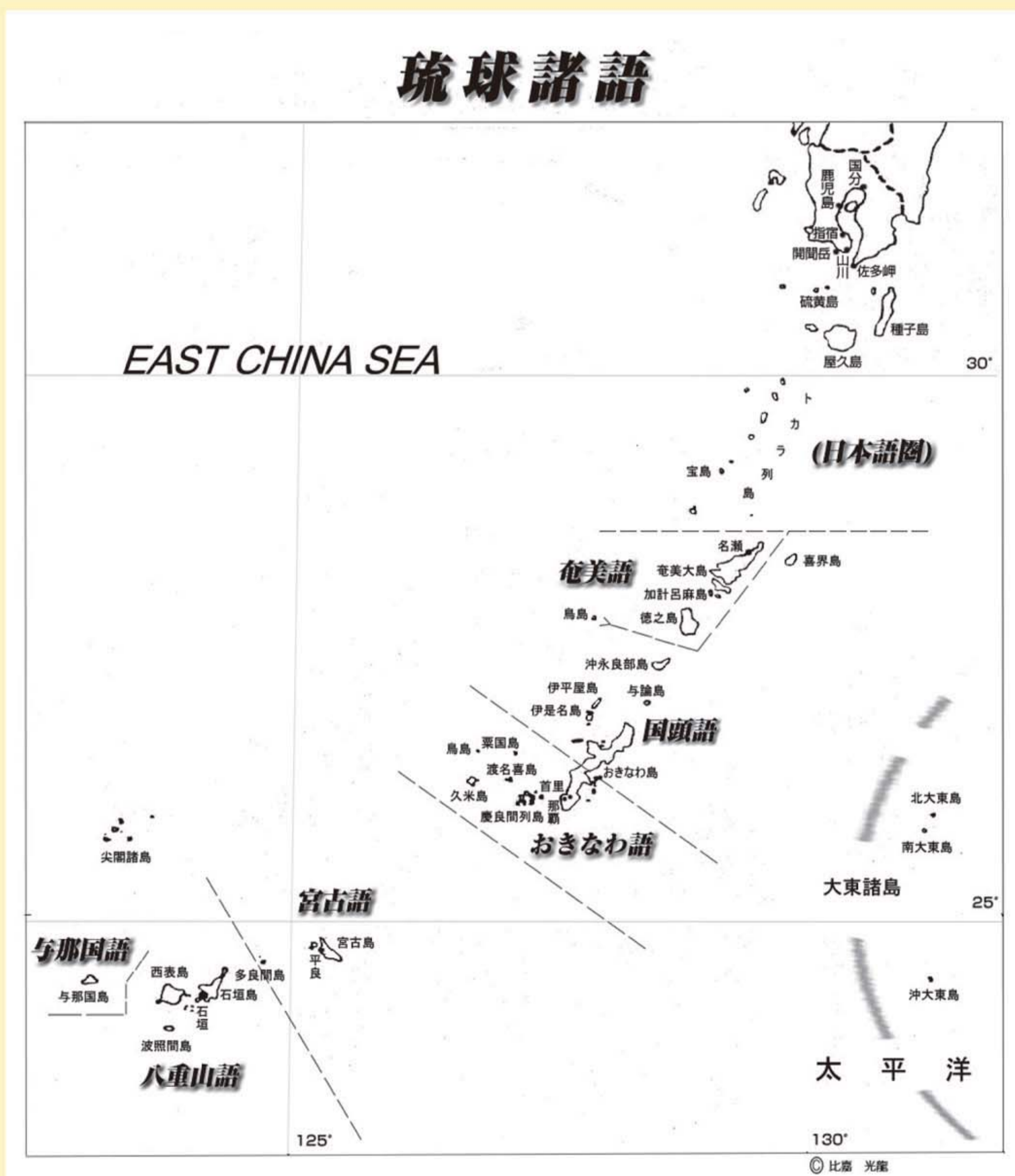
「雇用、就学の機会や、人種、宗教、国籍、性別の違い、あるいは疾患などによって所得、身体能力、発言力などが制限され、社会的に不利な立場にある人、高齢者、障害者、児童、女性、失業者、少数民族、難民、貧困層などが社会的弱者となりえる」と定義されています。

日本社会には「社会的弱者」と呼ばれる方々がたくさん存在していると思うんですね。まず、それらの方々の存在を知ることが大切です。今ざっと挙げましたけれど、親類縁者の中にも誰かしらそういう方々がいらっしゃると思うんですよ。例えば、高齢者。皆さん、必ず年を重ねてお年寄りになるわけですから。子供も

そうですね。皆さん、子供から大人になっているわけですし。誰しものが通るのが「社会的弱者」という環境だと思うんですね。ですから、「社会的弱者」とは、実は、皆さん一人一人全てに関係があることなんです。

日本社会は多言語国家

社会的弱者に関して、沖縄のことを考えてもらいたいと思います。配布した「琉球諸語」の地図をご覧ください。(資料1)2009年2月、ユネスコ(国連教育科学文化機関)が「琉球諸島には六つ



資料1



の危機言語がある」と発表しました。それも含めて、日本には日本語以外に八つの言語があると発表しました。まず一つは、北海道アイヌ語。これはどなたも御存知だと思います。それから東京都に八丈島がありますが、八丈島の言葉は八丈島方言ではなく、「八丈語」だとユネスコが認定しました。これらがいわゆる沖縄、琉球以外にある二つの言語です。

琉球諸島には六つの言語があります。北から「奄美」。奄美方言と今まで呼びならわされたものが、奄美語となりました。奄美語の下には、「国頭語」があります。これは沖縄島の北部を含めて行政的には鹿児島県になりますが、与論島、沖永良部、喜界島なども含めたものが国頭語となっています。そして、ここ中南部がおきなわ語です。さらに、宮古語、八重山語、与那国語というように六つの言語があります。これら六つの言語はお互いにほとんど通じません。言語がかなり違うんです。

要するに日本社会は多言語国家なんです。日本語だけだと思っていた方も多いでしょうが、実は、日本社会には琉球諸島の六つの言語に加え、アイヌ語、八丈語、日本語、合わせて九つの言語があるのです。日本は九つの言語を有する多言語国家なんです。このニュースは2009年2月に発表されていますが、このことを御存知だった方、手を挙げてもらえますか。はい、ほとんどいらっしゃいませんね。

これが先ほど社会的弱者に思いをはせてもらいたいと言ったことなんです。我々琉球の言語は、弱者どころか、偏見、あるいは差別にさらされてきました。第二次世界大戦中は、沖縄語を話す人とスパイと見なされ、処罰されることもあったのです。沖縄の言葉は、ほとんど撲滅されてしまったと言っても過言ではないほど、現在、沖縄の方々は、沖縄語を話すことができません。40代、50代の方で「食べて」「持っていけ」「来い」といった家庭内で子や孫に対する会話のできる方はいますが、公的な場でのきちんと

したあいさつは、60代、70代の方でもできません。80代でもまず無理でしょうね。

なぜかと言うと、これには、沖縄の歴史が関係しています。沖縄は、舜天(しゅんてん)という王がいたと言われている1187年から1879年までの692年間、独立王国でした。692年間の琉球の歴史があったんですね。しかし、1609年から1879年までの270年間は薩摩に支配されていたため、表面上は独立国の体裁を保っていたと言うほうが真実でしょう。いずれにせよ、1879年、つまり、明治12年までは琉球王国という独立国がこの地球上に存在していました。692年間存在していた琉球王国の言語が、方言であるわけではありません。一つの国の言葉は言語なんです。

なぜ、方言になったかということ、1879年から1945年までの66年間、琉球王国は日本に支配され、日本語のみを押し付けられて、自分たちの言語を学ぶことが全くなかったからです。勘違いしてもらいたくないのですが、私は琉球王国を復活させようとか、独立させよう目論んでいるものではないということをご理解いただきたいと思います。私が目指しているのは、欧米の少数言語復興モデルなんです。



沖縄大会で配布された冊子

ハワイ語の復興

例えば、ハワイ王国は、アメリカによってハワイ語やハワイの文化歴史が撲滅されそうになったことがありました。しかし、30年ほど前、マーティン・ルーサー・キング牧師の公民権運動に触発されて、ハワイの人々は、我々の言語、我々の文化、我々の歴史は我々のものである、素晴らしいものなのだから、言語的復興を目指そうと考え、まず、ハワイ語の保育園を作ったんです。その保育園の子供たちがハワイ語をせっかく覚えたのに、小学校に入学した途端に忘れてしまいます。これは寂しいということで小学校も作りました。小学校を卒業したら、忘れてしまうというので、危機感を抱いた親たちが中学校も高校も大学も作って、今ではハワイ語のみの大学院まであるんです。小中高を含めて、約2,000人の子供たちがハワイ語のみの学校に通っています。ですから、ハワイはかなり言語的に復興を遂げていると言えます。

ウェールズ語の復興

皆さん、イギリスには四つの国があるのをご存じでしょうか。イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドという四つの国で連邦を作っています。ウェールズの言語は、ケルト語系の言葉なので、英語とはかけ離れた言語です。この言語はかつてイングランドに侵略された際に撲滅されそうになったことがありました。しかし、30年ほど前、ウェールズの人々が熱心に復興運動に携わって、なんと、今から20年ほど前にウェール

ズ語の学習を義務教育化したんです。義務教育ですよ、皆さん。学校教育では、英語以外にウェールズ語を履修しなければならないと法律で定めただんです。だからといって、ウェールズはイギリス連邦から独立するわけではなく、イギリス連邦の中にいながらウェールズという地域を維持しています。

カタルーニャ語の例

別の例として、スペインのカタルーニャ地域があります。人口700万人で、一つの国と言ってもよいくらいの大きさで、カタルーニャ語という言語があります。カタルーニャでは、小学校、中学校、高校、大学でカタルーニャ語が使用されていて、テレビ、ラジオ、新聞でもカタルーニャ語が使われています。すごいんですよね、このカタルーニャ地域。カタルーニャ語は、ヨーロッパでも少数言語なのですが、使用人口が700万人もいるので、果たして少数言語と言えるかどうか……。そして、ここカタルーニャ地域はスペインから独立していません。スペインの中にいながら、カタルーニャという小国家を構成しているのです。

沖縄琉球諸島地域が目指すもの

沖縄、琉球諸島地域が目指すべきなのは、先ほどのハワイ語やカタルーニャ語のようなモデルだと考えています。しかし、沖縄の言葉が方言として扱われていて、学校教育には導入されていませんし、沖縄の言葉は日本語より劣っていると沖縄の人々が考えてしまうような悲しい現状があります。沖縄の言葉は、もう「方言」ではなくなっただんです。しかし、いまだに「方言」と言う方々が多いんですね。この琉球諸島地域には六つの「言語」があるということをご理解いただきたいのです。

これらの少数言語も、障害がある方とか、HIV感染者とか、日本社会の中の社会的弱者の一つになると思います。皆さん、国際交流もとてもすばらしい。しかし、日本の中には苦しんでいる方々がたくさんいます。よその国を助けるというのはとてもすばらしい行為だと思うし、慈悲ある行為だと思います。しかし、この日本社会には救いを求めている方々がたくさんいるんですね。そういう方々に関しても、ぜひ思いをはせていただけないかと思います。

琉球の歴史についても、ほとんどが東京の人が考え、中央政府が考える歴史観で構成されています。沖縄大学客員教授の新城俊昭さんが書かれた「沖縄から見える歴史風景」という本があります。日本の教科書ではこのように書いてあるけれど、沖縄側からはこのようにとらえているという観点で書かれている本です。例えば、沖縄では、6月23日は「慰霊の日」です。6月23日は、日本軍司令官の牛島満という方が自決した日なんです。でも、6月23日以降も沖縄の方は亡くなっているのです。だから、なぜ、6月23日を慰霊の日としなければならないのかという思いが沖縄の人々にはあります。このような沖縄側から見た歴史的定義が



述べられている本です。私も読んでみて、目から鱗が落ちるような思いをたくさんしました。沖縄側から見た歴史的定義を説明する本がもっともっと出てこないかなと思っています。

琉球の言葉に関しても、「琉球の言葉は『言語』であり、『方言』ではない」と主張する学者が少ないという現状もあるんですが、私が沖縄語の講師をしていますと、「方言の先生ですか」と言われることがあって、傷つけられるんです。私の言葉は沖縄語という「言語」であり、「方言」ではないんです。「方言」と言うと、日本語より下という考え方になってしまいがちです。こういったことを改めて認識していただければと思います。ご清聴ありがとうございました。

基調講演者プロフィール

比嘉 光龍(ふいじゃ ばいろん)氏

唄三線者(うたさんしんしゃ)

沖縄大学地域研究所特別研究員

1969年、沖縄県那覇市生まれ、沖縄市育ち。米国人の父・沖縄県出身の母の間に生まれるが、生後すぐ叔父・叔母に育てられる。高校卒業後、ミュージシャンを目指し、イギリス・アメリカに留学。

沖縄の文化や言葉についてそれまで特に興味を持っていなかったが、沖縄から離れ、世界から沖縄を見たことにより三線(沖縄三味線)の音色やうちなーぐち(沖縄語)の美しさに目覚め、本格的に学ぶ。うちなーぐちはうちなー芝居(沖縄芝居)の名優、真喜志康忠(まきしこうちゅう)氏から教えを受ける。

現在は、沖縄大学地域研究所特別研究員。県内カルチャースクールにてうちなーぐちの講師を務める傍ら、テレビ・ラジオでうちなーぐち講座の番組に出演、沖縄タイムスこども版「ワラビー」でうちなーぐちコラムを担当。自分自身を「ハーフ」ではなく「アメリカ系うちなーんちゅ(おきなわ人)」と位置づけ、「方言」ではない独立の言語※としての「うちなーぐち」の研究・普及、及び唄三線者としての活動を行っている。

※2009年ユネスコが「日本にある八つの言語のうちの一つが『沖縄語』」であると発表

比嘉光龍氏のオフィシャルサイトはこちら
<http://fijabyron.com/profile>



平成24年度 第11回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」 NPOマネジメントフォーラム2013



小グループに分かれてディスカッションを行う



話し合った内容をまとめる



話し合った内容を発表する

NPOマネジメントフォーラム2013 宣言文

本フォーラムに参加したデンマーク、ドイツ、英国及び日本の参加青年は、持続可能な共生社会の実現を目指して、行政との連携を基本としつつ、市民及び企業との連携を深め、ニーズに応じた発展的な協働を展開していきたいと考えます。

そのためには、非営利団体が、地域住民・企業・他の非営利団体とのさらなる協働の促進を図る取組が必要と考え、本フォーラムにおいて議論を重ね、その成果を宣言文としてまとめました。

NPOマネジメントフォーラム2012の成果を引き継いで

現代社会の様々な課題の解決のために非営利団体が果たすべき役割は、より広範囲になっています。それらの役割を担うにあたっては、行政との連携が必須であると考え、NPOマネジメントフォーラム2012（平成24年2月実施）のテーマを「非営利団体と行政のさらなる連携強化と協働について」とし、次の考え方を基本として行政との連携に取り組むことが宣言されました。

まず第一に、非営利団体と行政はパートナーシップを持って協働していくものであり、互いの役割と持てる力を相互で明確にして協力していかなければならないと認識しました。

第二に、互いに信頼を築いて協働していくために、様々な課題への共通認識を持ち、より具体的な連携の場を作り出していくための取組をまとめました。

NPOマネジメントフォーラム2013の取組

NPOマネジメントフォーラム2012の成果を受けて、NPOマネジメントフォーラム2013では、共生社会の実現のために、行政との連携を基本としつつ、地域住民・企業・他の非営利団体と

の連携が必須であると考えます。特に、地域に焦点を当てて、足元からの基盤づくりを行っていくために、「団体の理念を達成するための地域における連携強化」をテーマに取り組みました。

社会の構成員としての地域住民、経済活動の中核を担う企業、それぞれの目標を持って課題解決に取り組む他の非営利団体という三者との密接な連携関係を築いて協働していくには、以下の三つの考え方が重要であると認識しました。

第一に、それぞれの立場が対等なパートナーシップの考え方で、コミュニケーションを取り合うこと。

第二に、継続的な関係を構築し、互いに益がある発展的な連携を目指していくこと。

第三に、非営利団体には、行政も含め、住民、企業、他の非営利団体をつなぐ役割があることを認識すること。

これらを踏まえて、連携のために必要な取組を提案します。

トピック1

地域住民との連携は、非営利団体が効率的に当事者の幸せを求めていく上で重要であります。地域住民との連携を促進するには、当事者のニーズを把握するのはもちろん、地域住民のニーズを把握することが必要です。そのための地域住民との連携において、私たちは三つのステップがあると考えます。

ステップ1 非営利団体が、自身の活動に地域住民が直接触れる機会を作ること。

団体の理念を達成するための地域における連携強化 ～非営利団体と地域住民・企業・他団体との連携を深めるために～

【ディスカッション・トピック】

1. 地域住民との連携 2. 地域における企業との連携 3. 地域における他の非営利団体との連携

NPOマネジメントフォーラムは、高齢者・障害者・青少年の三つの分野の非営利セクターで活躍する日本と諸外国の青年が一堂に会して、各国のNPO事情や活動事例に基づく有益な情報を共有し、実践的な意見交換を通じてNPO運営に関する能力の向上を図り、それぞれの分野において社会活動を支え、その中心的な担い手となる青年リーダーを育成することを目的として実施しています。

多様化した現代社会に次々と現れる課題に対応していく上で、非営利団体が果たす役割は、より一層大きくなっています。そのため、平成23年度のNPOマネジメントフォーラム（平成24年2月実施）では、複雑化する社会の諸課題に対応していくために、非営利団体が国や地方行政などとの連携により効果的な協働に向けて努力していくことが必要であると話し合いました。討議の後で、さらなる協働の促進に必要な取組について宣言文をまとめ、参加者一人一人がそれぞれの団体にお

いて努力していただくだけでなく、協働体制強化のために広く非営利団体及び行政関係者に呼びかけています。

さらに、非営利団体が、地域社会及び様々な分野において今まで対応されていなかったニーズにきめ細かく応える力を発揮するためには、行政と連携しながら、共に課題に立ち向かう体制をつくりあげるだけでなく、それぞれの地域において様々な分野と連携し協働する必要があります。

今年度のNPOマネジメントフォーラムは、団体・企業や地域住民との連携を強化し、活動・事業を推進していくために、参加各国（日本、デンマーク、ドイツ、英国）での事例を共有し、連携促進に必要な考え方や取組を話し合い、参加者が具体的なアイデアを持ち帰り実践することを目指し、平成25年2月7日（木）から10日（日）に実施されました。情報共有や意見交換の成果は、参加者が「NPOマネジメントフォーラム2013宣言文」としてまとめました。

- ステップ2 非営利団体が、自身の活動に地域住民が主体的にかかわる際には、地域住民が当事者の問題を自分の問題として認識、理解する手助けをすること。
- ステップ3 非営利団体は、地域住民が継続的かつ主体的にかかわるために、地域住民にモチベーションを維持する機会を提供し、活動の適正な評価をしていくこと。

トピック2

非営利団体は企業と協働関係を持続させるために、相互理解に基づき、互いに益のあるパートナーシップを築く力が不可欠であり、連携するために自団体の強みを見出し、ニーズを把握し認識しなければなりません。

さらに、非営利団体が十分な交渉力を備えることが必要であり、そのうえで、企業との間にお互いの強みとニーズを認識し合う場を設け、共通の目的・達成目標を設定します。

こうした取組により、個々の力以上のものが発揮されます。

また、双方の信頼を確立し、契約関係を結ぶことによって、パートナーシップを明確に示すことができます。

私たちは、世界中の誰にとっても、より良い環境を築き、企業と革新的な新しいビジネスモデルを築くプロジェクトを促進します。

トピック3

私たちは地域社会に貢献するために、他の非営利団体と連携する機会を拡充していきます。

その実現のため、

- ・ 定期的な対話を通じ、互いを認め合い尊重すること
- ・ 事業の共同企画と実施のた



め、連携を拡大するための関係を図式化すること
・ 役割と責任を明確にした事業計画の策定
に取り組みます。

非営利団体の活動と人の力は密接に結びつくものです。

非営利団体間の垣根を越えた事業実施と人材交流は非営利団体の参加者を成長させるのみならず、地域社会の結びつきを強めることにもつながります。

行政はこうした取組を尊重し、促進していくことが重要であると考えます。

以上の取組を進めていくにあたって、非営利団体は、次の二つの考え方を持って団体自身がすべての活動に積極的に取り組んでいく必要があります。

様々なニーズに対応していくために、常に幅広い視野を持ち新しいアイデアと新しい活動やシステムを作り出す力をつけましょう。それによって、社会に様々な変化を起こす起爆剤となりましょう。

また、常に社会的影響力を広げる努力を行い、自分たちの理念とアイデアそして活動を社会にアピールしていきましょう。

私たちは、本フォーラムで得た成果を自国へ持ち帰り、それぞれの地域社会において、目指す社会の実現に向けて、非営利団体が核となって推進していけるように努力します。

そのために、さらなる工夫や必要な情報提供を惜しまないこと、また互いの立場や理念を理解することで基本的な信頼関係を築き上げ、連携の構築のための取組に尽力していきます。

NPOマネジメントフォーラム2013参加者一同

青少年国際交流を考える集い

北海道・東北ブロック大会

期 日：平成24年9月22日(土)～23日(日)

会 場：浦戸諸島桂島 旧浦戸第二小学校体育館(宮城県塩竈市)

テ ー マ：「桂島から世界へ ～語(かた)っぺ、絆を、
未来(あす)を創る力を～」

参加者数：68名



早朝に桂島周辺を視察した参加者

実行委員長: 川合真澄氏

開催にあたり工夫した点:

参加者自身が、「人との『つながり、絆』をいかした社会活動を行って
いく上での学びを得る」という大会テーマを達成するため、パネル
ディスカッションとグループワークがうまく結びつくよう次の2点
を意識して計画しました。パネル
ディスカッションを通じて①「復興支援活動において感じた人との
『つながり、絆』の尊さ」を参加者
全体で共有した後、グループワークを通じて②「人との『つながり、
絆』をいかした社会活動の輪を広げるアイデア」を参加者間で意見
を出し合い、更なる気付きが得られるようにしました。



石巻市立病院にて医療スタッフとして活動するIYEO会員及川敦子氏による
パネルディスカッション

日程

| | |
|---------------|---|
| 第1日目 9月22日(土) | |
| 14:30 | 開会式 |
| 15:00 | パネルディスカッション「復興支援活動を通じて感じた絆 ～これからの支援のあり方を考える～」 講師：三浦勝治一般社団法人浦戸夢の愛ランド代表理事 講師：及川敦子石巻市立病院看護師 |
| 16:30 | グループ・ワーク「活動の輪を広げるアイデアを出し合おう」 |
| 17:30 | 記念撮影 |
| 18:30 | 懇談会 |
| 第2日目 9月23日(日) | |
| 5:00 | 浦戸諸島被災現場視察 |
| 6:15 | 早朝ガイド付き島歩き |
| 9:00 | 帰国報告会 |
| 10:00 | 閉会式 |
| 11:00 | 地域理解研修(石巻視察コース・桂島ボランティアコース) |

青少年国際交流を考える集い

関東ブロック大会

期 日：平成24年10月13日(土)～14日(日)

会 場：湘南国際村センター(神奈川県三浦郡葉山町)

テ ー マ：「新たなつながり、自分らしいチャレンジ。
そして皆(みな)と未来(みらい)へ」

参加者数：83名



実行委員長: 渡辺一行氏

開催にあたり工夫した点:

基調講演・分科会を通じて、宇宙という壮大なテーマへのチャ
レンジから、地域に根差した地道なアクションまで、そして、大
きなビジョンを持つことの意義から具体的な行動への移し方や、
いかに「つながり」を築き、いかしてきたかまでを学ぶとともに、
経験を積んだベテランとつながりながら、若い世代が活躍する出
発点となることを目指しました。加えて、神奈川県豊かな自然、
歴史ある文化など、地域の魅力に触れて発信する場とするため、
基調講演者に「宇宙開
発への挑戦」に携わっ
ておられる方、「地域」
「食」「異文化理解」「日
本文化の発信」という
四つの分科会に各分
野のプロをお招きし
ました。講師と参加
者が交流できるよう
に工夫しました。



NEC航空宇宙システム宇宙事業シニアエキス
パートの小笠原雅弘氏による基調講演

日程

| | |
|----------------|--|
| 第1日目 10月13日(土) | |
| 14:15 | 開会式 |
| 14:45 | 基調講演：「『はやぶさ』を継ぐもの ～新たな太陽系大航海時代に向かって～」 講師：小笠原雅弘NEC航空宇宙システム宇宙事業シニアエキス パート |
| 16:30 | 分科会 分科会A「地域」 地域で働く～あそびからはじめる地域再生～ 分科会B「食」 地元特産を神奈川ブランドに! ～若者が取り組む情熱的ハムづくりと大都市横浜の食と農～ 分科会C「異文化理解」 多文化共生の実践を学ぶ 分科会D「日本文化の発信」 武家の古都鎌倉世界遺産登録を 目指して |
| 19:00 | 懇談会 |
| 第2日目 10月14日(日) | |
| 9:00 | 帰国報告会 |
| 10:10 | 事後活動成果発表 |
| 11:15 | 閉会式 |
| 12:00 | 地域理解研修(横須賀コース、鎌倉コース) |

青少年国際交流を考える集い

近畿ブロック大会

期 日：平成25年1月19日(土)～20日(日)

会 場：ホテルサンプラザ堺ANNEX (大阪府堺市)

テ ー マ：「自由都市から伝えたい—あなたの“まち”の誇れるところ—」

参加者数：62名



平成24年度 近畿ブロック青少年国際交流を考える集い
自由都市から伝えたい—あなたの“まち”の誇れるところ—

実行委員長: 杉野未奈氏

開催にあたり工夫した点:

地域理解を目的とし、一つの地域「堺」に焦点をあて、堺の魅力を掘り下げました。特に、堺の文化・歴史などを「商い」を切り口として関連付け、分科会の多様化に努めました。体験型のフィールドワークに重点を置いたプログラム構成とし、参加者が楽しめるようにしました。フィールドワークの前に基調講演を聞き、その後のグループワークによって、参加者自らが気づき、得た気づきを共有できるプログラムとしました。また、参加者の負担を軽減するため、立地条件のよいホテルを選定しました。



元堺市博物館副館長の中井正弘氏による堺市の歴史についての基調講演

日程

| | |
|---------------|--|
| 第1日目 1月19日(土) | |
| 12:30 | 開会式 |
| 13:00 | 基調講演：堺市の歴史紹介 講師：中井正弘元堺市博物館副館長 |
| 14:25 | 分科会 ①『線香』発祥の地…堺 ②戦国時代の堺の繁栄を支えた鍛冶産業 ③“てくてく”港まち ～時代を築いた堺港・地場産業～ ④自由都市へのルーツ…古の堺 |
| 17:00 | 分科会まとめ |
| 19:00 | 懇談会 |
| 第2日目 1月20日(日) | |
| 9:00 | 帰国報告会 |
| 10:35 | 閉会式 |
| 11:15 | 地域理解研修 ①Deep新世界散策コース ②堺・文化体験コース ③堺・歴史探訪コース |

青少年国際交流を考える集い

中国ブロック大会

期 日：平成25年1月19日(土)～20日(日)

会 場：倉敷市男女共同参画推進センター・
ウィズアップくらしきNOCCA、
天満屋バンケットルーム(岡山県倉敷市)

テ ー マ：「文化と交流で 自ら考え行動するグローバル人財に」～天領の街 くらしきに来られえ～

参加者数：108名



実行委員長: 志水由和氏

開催にあたり工夫した点:

参加者の利便性等を考え、倉敷駅の周辺の施設で実施し、移動時間を最小限にするように配慮しました。基調講演に大原美術館理事長の大原謙一郎氏を迎え、すばらしい講演をしていただいたことで、話合いの内容を深化させることができました。ディスカッションの際には、6月の都道府県IYEO役員研修で実行委員が学んできたプロジェクト案を考える方法を用い、チャレンジ・ファンド等も念頭に置きながら、来年度実現させたい内容も考えるようにしました。また、ディスカッショングループは、様々なバックグラウンドの人で構成されるようにしました。お土産選びの一助としていただけるように、ディスカッションの際の茶菓を倉敷・岡山銘菓にしました。



講演
敷で考える『文化の力と世界とのつながり』
公益財団法人大原美術館 理事長

日程

| | |
|---------------|--|
| 第1日目 1月19日(土) | |
| 13:45 | 開会式 |
| 14:30 | 基調講演:「倉敷で考える『文化の力と世界とのつながり』」 講師：大原謙一郎公益財団法人大原美術館理事長 |
| 16:30 | ディスカッション 「自ら考え行動するグローバルな人材になる、または育てるにはどのように取り組むべきか」 |
| 19:00 | 懇談会 |
| 第2日目 1月20日(日) | |
| 9:00 | 帰国報告会 |
| 10:30 | 閉会式 |
| 11:30 | 地域理解研修(大原美術館・美観地区散策) |

公益財団法人大原美術館理事長の大原謙一郎氏による「倉敷で考える『文化の力と世界とのつながり』」と題する基調講演